

【卒業生寄稿】

後藤 崇 (2014年卒業)

(在リオデジャネイロ日本国総領事館副領事)

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。

私は2010年にポルトガル語学科に入学し、2014年に学部を卒業、同年上智大学大学院外国語学研究科に入学し、2016年に修了しました。2016年からは外務省で勤務しており、現在は在リオデジャネイロ日本国総領事館で働いています。

皆さんが外国語学部に入学者理由は、当然のことながら一人一人違うと思います。留学したい、外国人の友達とコミュニケーションをとれるようになりたい、将来語学を生かした職業に就きたい……。挙げだしたらきりがありませんが、どのような理由であれ、語学が好きということは共通しているかと思います。私自身、高校生の頃から語学学習が好きで、外国語学部に入学者しました。学生時代は、語学をマスターするために色々と試行錯誤しながら、様々な事に注力していましたが、これから語学を極めようとする皆さんに、私の経験則に基づいて言えるアドバイスを何点か述べたいと思います。

まず第一に、留学の推奨です。「別に留学に行かなくても、国内でも語学はマスターできる」と考える人もいます。確かに留学に行かずしてある言語を流暢に操る人もいます。その事実は、留学が語学をマスターするための必要条件ではないということの証左であると考えられます。ですが、留学で得ることが出来るのは、何も語学のレベルだけではありません。その国の文化、国民性、社会、歴史等実際に行ってみなくては知ることのできないことを学ぶことが出来ます。これらの事項は、「語学を(文法通りにきれいに)話す」という観点から言えばそこまで重要視するような要素ではないかもしれませんが、仕事で語学を使う際にはなくてはならない要素であると思います。私自身の経験に即してみても、実際に現地のブラジル人と交渉したり話し合いを行う際は、相手がどのような文化や国民性を持っているかを考慮に入れて進めないと、生産的な話し合いをすることができずと感じることが多々あります。仕事で語学を使いたいと考えている方は、是非留学し、その国土着の文化や国民性を肌で感じることをお勧め致します。

第二に、よく言われることですが、座学だけの勉強にとらわれないことです。文法や作文の練習をする必要がないと言っているわけではありません。これらは確かに重要な事項で、文法等の知識がないと、自分の思っていることを正確に相手に伝達することが困難です。

是非、文法や作文はしっかり勉強していただければと思いますが、それ以上に会話の練習に重点をおくようにした方がいいかと思います。私は学部 3 年生の時に留学しましたが、それまで座学の学習が主であったので、いざその国のネイティブスピーカーと話すとなった時に、言葉が出てこずうまくコミュニケーションをとることができませんでした。語学は「インプット」ももちろん重要ではありますが、それ以上に「アウトプット」が肝要であると痛感した瞬間でもありました。ポルトガル語学科にはネイティブの先生方がたくさんいらっしゃるので、自分が勉強した表現が実際に通じるかどうか確かめるという意味でも、積極的に会話するようにしてみてください。

最後に、やや漠然としたアドバイスになってしまうのですが、是非長期的な視点で物事を見ることができるよう努力して下さい。これは、実際社会に出たらあらゆる場面で必要になることではありますが、こと語学学習に関してよく当てはまることです。語学習得に王道はなく、時間をかけることでしか上達しません。時間をかけずして、自分は才能がないからと短期間で諦めてしまうのは、チャレンジせずに諦めるのとほぼ同義であると思います。「長期的にみればきっとレベルは上がる」とポジティブにとらえることが重要です。

私は上記 3 点を意識しつつ(思い通りにできなかったものももちろんありますが)大学生活を送り、その結果現在は、幸運にもポルトガル語を使う職業に就いています。働き始めてから新たな発見をしたり、新たな挑戦があることも事実です。特に昨年から今年にかけては、新型コロナウイルスが世界的に猛威を振るい、これまでに前例の無い事態となり新しいことの連発でした。なかなか困難な場面も多かったのですが、そのような中でも慌てず毅然と海外で生活、仕事をするのができたのは、自分が学生時代に培った確かな知識、語学力があったからだと胸をはって言うことができます。皆さんがこれから過ごす大学 4 年間は、将来のあらゆる場面で影響を及ぼすことがあり、それがプラスの影響になるか、マイナスの影響になるかはその 4 年間の「濃さ」次第だと思います。大学生活は長いようで短いです。是非充実した 4 年間で過ごしてほしいと思います。